

電気学会公開シンポジウム

「大切な電気エネルギーのインフラ構築に向けて」

電気学会公開シンポジウム実行委員会

Toward the Development of Infrastructure for Important Electric Energy
IEEJ Public Symposium Planning Committee

電気学会では、昨年度、電気エネルギーの問題が、電気を「作る」のみに集中しがちであることを鑑み、電気を安全・安心に使うには同時に、電気を「送る」、「使う」を上手にスマートにしていくことが重要であることを発信するために東京と名古屋で公開シンポジウムを開催した。

今年度は、さらに一歩進め、スマートなインフラをどのように構築していくかも含めて議論を深めるため「大切な電気エネルギーのインフラ構築に向けて」と題してシンポジウムを開催している。支部の協力を得つつ開催地を増やし、情報発信を活発化させている。ここでは、2012年11月に開催された2件のシンポジウムの概要を報告する。

1. 宇都宮での公開シンポジウム

東京支部との共催により2012年11月12日に宇都宮にて開催した。当日は154名の方にご参加いただいた。

柵山会長からの挨拶に引き続き3件の講演をいただいた。

講演1は、日高会長代理より「社会における電気エネルギーの役割」と題して、電気エネルギーの特質、日本の電力供給・需要の特徴、社会インフラ間の連携、電気依存度、スマート社会への貢献などについて解説いただいた。電気エネルギーは、特に相手に与える影響の大きいインフラであることが数値を持って紹介された。

講演2は、東京大学大学院横山教授より「再生可能エネルギーを最大限活用する電力システム構築に向けて」と題して、電力システムを取り巻く状況の変化を整理していただくとともに、再生可能エネルギー電源の大量導入のための課題と対応策、スマートグリッドについて解説いただいた。また、そのための系統対策のコスト負担の問題にも触れられた。

講演3は、電力中央研究所の小林広武氏より「電気利用の

スマート化」と題して、電力供給・利用環境の変化とこれからの電気の使い方、省エネ・節電方策について、再生可能エネルギー大量導入に対応する供給サイドと需要家サイドの連携について紹介いただいた。ヒートポンプ式給湯機で太陽光発電の余剰電力を抑制する方法が紹介された。

2. 東京での公開シンポジウム

2012年11月26日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催した。当日は136名の方にご参加いただいた。

土井副会長からの挨拶のあと、3件の講演をいただいた。

講演1は、日高会長代理より宇都宮と同じ講演をいただいた。

講演2は、東京大学生産技術研究所の荻本特任教授より「エネルギーシステムインテグレーションー電力システムのインフラ構築に向けて」と題して講演いただいた。様々な原子力シナリオに基づくベストミックスと課題、再生可能エネルギー、発電予測、需給調整、需要の能動化など幅広い関連する内容をご紹介いただいた。

講演3は、東京大学大学院の柳原特任教授より「将来の電気社会ースマートグリッド技術による電気の上手な使い方」と題して需要家サイドのご講演をいただいた。豊富な具体的な事例をあげて、特にビルを対象に省エネルギー、負荷平準化、電力デマンド、デマンドレスポンス、ユースケースなどのご紹介をいただいた。

なお、宇都宮、東京のいずれもフロアから活発な質疑をいただいた。電気学会では今後もこうした機会を活用して電気についての啓発活動を続けていきたいと考える。



宇都宮シンポジウムの様子



東京シンポジウムの様子